

第37回 うつのみやこども賞だより

令和2年度 3回

市内5・6年生の選定委員さんたちが、月に4冊の本を読んで、年間で一番人気の高かった本に「うつのみやこども賞」を贈っています。

《今月選ばれた本》

『本能寺の敵 キリサク手裏剣』

加部鈴子／作（くもん出版）



令和2年8月2日

うつのみやとしょかん
Utsunomiya city library

～読んだ本の感想より～

- 戦国時代の戦いは、くるしくてとても悲しいものなんだと思った。でも、その中でも家族を大切にしている人がいるところが、いいなと思いました。
- すずねがふうとの目をきったときはすごくびっくりした。すずねのおしえかたがていねいだったので、もしもいたら算数をおしえてもらいたいです。
- 本能寺と言えば、とてもかなしいじけんで、その中にこんなにすごいことがひそんでいるとは思わなかったので、意外でした。
- 今回は明智の目線でかかれていたが、次はちがった目線で読んでみたい。
- 忍の2人の話がおもしろく、スラスラ読めた。歴史が好きな人に読んでほしい本。

『魔女ラグになれた夏』 夢内明子／作（PHP研究所）

- あてねちゃんにも岬にも共感しました！最後は紗奈ちゃんとも仲良くできてよかったです。
- 岬とあてねちゃん、また要とのやりとりがおもしろかったです。私も男の子の友だちと「けいやく」をしたいです。来年のオリンピックがまちどおしくなりました。
- 私は兄、姉、私の三きょうだいで、お姉ちゃんの気持ちが分かった。何度も「お姉ちゃんだから」と書いてあり、むねがいたんだ。でも、妹が心配し、はっきり言った所はお姉ちゃんが悪かったなと思った。
- 何度よんでもおもしろく、よむたびに考えがふかまっていて、とてもこの本が好きです。よみ終わったあとに、表紙をみると「あー。」てなっておもしろかったです。
- ほのぼのとした日常をかいているところがよみやすい。

『イケてる！ろくろ首!!』 服部千春／作（出版ワークス）

- 「ろくろ首」と言われると「おばけ」という印象が強いけど、そのイメージの正反対でびっくり!! 題名からなんとなくそうそうはできたけど、こわい話が苦手な人でも好きになれる物語。
- 「もしかして本当にろくろ首がいるんじゃないか？」と思える本で、とても読みやすかった。
- この本を読んで最初に思ったのは「いいな」です。ページをめくる手ごとまりませんでした。
- 「2+4=6」のほうそくがやくにたった人がふたりいて、さいごのさいごがすごくおもしろかったです。

『ポシーとポパーふたりは探偵 魔界からの挑戦状』

オカザキ・ヨシヒサ／作（理論社）

- ポシーとポパーの、勇気のある行動が良かった。
- まぶたの色が変わると、推理力がすごい。
- 依頼人の依頼やポシーの搜索、解決方法がファンタジーならではの、バルバリッチャが黒のキングをのみこんでかくしていたのはふつうの人間はそんなことはしないから、発想が面白い。ファンタジーと探偵の話が好きだから、二つが組み合わさっているこの話はとても気に入った。
- 主人公の独特な体質？や、気分やのトムイムなど、ものがたりをひきたてる人物が多くておもしろい。